



# 迎春

平成三十年



芳賀町長 見目 匡

あけましておめでとうございます。皆さまにはすがすがしい気分でお迎えのことと心からお慶び申し上げます。日頃から町政に対し温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年は、第6次芳賀町振興計画3年目の年となります。この振興計画は、未来志向の視点から「つなげる」をキーワードとし、「便利」「教育」「話題」「笑顔」そして「地域」の5つの分野を設けています。中でも、LRT(次世代型路面電車)や祖陽が丘住宅団地、新産業団地の整備といった「便利をつなげる」の都市基盤分野はその中核です。

LRT事業は、昨年申請しました軌道工事施行認可ならびに都市計画事業認可の取得を目指すとともに、宇都宮市とより一層連携し、工事着手に向けた取り組みを推進してまいります。この事業により県央部との交通アクセスを向上させ、他の交通手段と連携した広域的な公共交通ネットワークを構築することで、人の流れが活発になり、町のみならず周辺市町への波及効果も期待されることから、事業のさらなるPRに努めてまいります。

芳賀町のにぎわい創出と定住人口の確保を目指し造成を進めている祖陽が丘住宅団地は、昨年に引き続き、道

路、上下水道などのインフラ整備を着実に進め、平成31年から分譲を開始する予定です。

雇用拡大と企業の立地需要に応えるための新産業団地は、開発規模を約23ヘクタールとし、芳賀・高根沢工業団地の南側隣接地に整備を予定しています。本年は、県の支援を頂きながら各種調査測量を行います。また、関係者および関係機関との協議を進め事業区域を具体的に決定し、都市計画法などに基づく法的手続きを開始します。

「話題をつなげる」の産業経済分野では、栃木県の農産物リーディングブランドに指定されている梨「にっこり」のさらなる栽培面積の拡大と販売促進の強化、芳賀町産特別栽培米コシヒカリ「芳賀のめぐみ」のPRなど、町の魅力や話題づくりを積極的に行い、町内外に発信してまいります。

本年も町の将来像「躍動する芳賀の町 未来につなげる」の実現を目指し、町民の皆さまが住んで良かったと実感できるまちに成長するようにまい進してまいります。結びに、本年が皆さまにとりまして素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。



芳賀町議会議長 石川 保

あけましておめでとうございます。すがすがしい新春を町民の皆さまと迎えられることを心からお慶び申し上げます。年頭にあたり芳賀町議会を代表しまして謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、議会に対してさらなるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は突然の衆議院選挙が実施され、国民の多くが唐突な思いを抱く中、投票することになりました。結果は与党の圧勝であり、まさに「漁夫の利」ともいえる、真の民主主義が反映されたのか疑問の残る結果で、国民との意識の乖離を感じざるをえませんでした。しかし、現実を受け止めなければなりません。北朝鮮の動向など国際情勢はかつてない緊迫した状況であり、何としても戦後70年余平和にきたこの日本を壊さない舵取りを切に願うものです。

さて、芳賀町においては、いよいよLRT(次世代型路面電車)の本格的な整備がスタートします。芳賀町にとって公共交通網が完成されることは、将来にわたって

も発展への起爆剤になることを期待するものです。この事業には異論もあります。特に宇都宮市にはさまざまな意見があることも認識しなければなりません。しかしこの事業がすべての市民、町民にとって完成してよかったですと思われる事業にしていく必要があります。そのためには、芳賀町のさらなる発展のため、特にランジットセンター「交通結節点」周辺の開発は、利便性、そして先見性のある魅力的なものとしなければなりません。

一方、現実的な少子高齢化時代に備え、人口減少問題を改善するために若年層の定住促進や子育て支援など、LRTの活用を視野に入れた具体的な施策が求められます。諸課題は多岐にわたりますが、議会としましてもそういった視点に立ち活発な議論が行われることを推進するとともに、町民の皆さまからも建設的なさまざまなご意見を賜りたく存じます。

結びに、芳賀町の発展と町民すべての皆さまの健康、ご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。